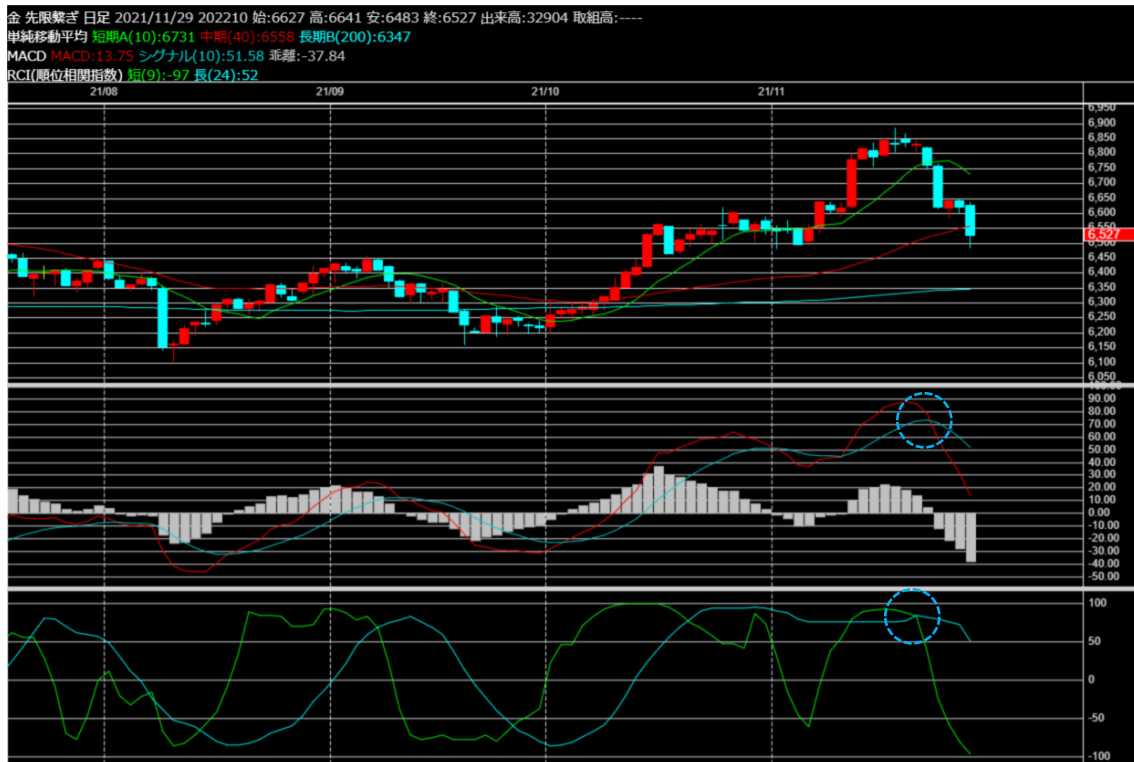


＜金標準先物、変異株を受けたテーパリングの後退・・・＞



(出所：オアシス)

南アフリカで新型コロナ・ウイルスのデルタ株から変異株「オミクロン」へ感染者が移行している。特に欧州はデルタ株の感染拡大が英国をはじめドイツやオーストリア、オランダなど増加傾向にあり、デルタ株を超える感染力の強い変異株の登場で世界各国は感染拡大の伴うロックダウンの懸念を高めている。そのため世界市場では、不確実性の高まりから逃避の動きが強まり、ダウ平均は一時1000ドルを超える下落を示し、安全資産である米国債は逃避やテーパリングの後退で買われ10年債金利は11月8日以来の1.482%まで低下している。特にNY金は金利低下やドル安の動きに支えられ一時1816.3ドルまで高値を試すなど、下げ渋る動きを見せている。

またインドで「デルタ株」が登場しWHOが「注視すべき異変」と発表した今年5月11日以降の金標準先物は、6411円から高値6742円まで上昇を示すなど、逃避の動きから信用商品の強みを見せて値上がりを行なっている。

そのため目先為替市場の逃避買いで円高が進み6450円を試す可能性は残るが、デルタ株と同様の感染リスクは金標準先物を押し上げる要因へと変化すると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが下がりながら、RCIでも短期が下げながら長期も下げだしており、基調は弱気が支持されている。しかしMACDの乖離を示すヒストグラムが乖離し過ぎており、RCIでも短期と長期の乖離も拡大を示すなど、目先下げ過ぎのリバウンドが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 295,500 円(2021 年 11 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2021 年 11 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>